

## 体育学部におけるメディカルチェック

### — 問診表作成の試み —

## The Question List of the University Athletes for Medical Check

松本高明\* 峰岸由紀子\*\*

Takaaki MATSUMOTO\*, Yukiko MINEGISHI\*\*

### はじめに

体育学部が多摩に移転し、3年が経過した。体育学部学生は、一般学生に比べ健康であろうというのが一般的な感想であろう。しかしながら、体育学部の学生のなかには、日常の練習に加え、学業も両立しなければならず、また、自炊で下宿という生活習慣からか、必ずしも健康的といえない疲れた姿で健康管理室を訪れるものがある。この3年間、週1回の医療相談を体育学部健康管理室で行ってきたが、入学時もしくは進級する際に、問診表を用いて事前に個々の学生の身体的特徴を把握しておく、急病の発生時や健康に関する相談を受けるに当たって有効であると考えられる例が多い。これら症例のうちのいくつかを提示し、問診表作成の必要性について論じたい。また、今回われわれは、体育学部学生を対象とした問診表を作成したのであわせて報告する。

### 症例供覧

#### 症例1 4年生女子 てんかん発作

アパートで一人暮らし

高校生より、ときどき痙攣を伴う意識消失発作が出現した。病院受診により、てんかんと診断を受け、外来通院を行っていた。以後痙攣発作を

防止する目的で内服を継続していた。

大学1, 2年生では発作は認められず。臨海実習も参加。大学3年より、部活練習中や放課後、廊下やアリーナで発作出現。安静、酸素投与にて症状改善。以後同様の発作がくりかえし出現するため、かかりつけ医に受診させる。その後通院していたが、1カ月に1回程度の痙攣が出現していた。大学4年春、痙攣発作が頻発するようになる。本人によれば、下宿で一人でいて発作が出現したことがあるとのことであった。本人、教育実習の参加の可否判断の相談のため、健康管理室来室。主治医、教育実習校（出身校）担当者と本人とが相談して可否判断を行うように指示し、結果教育実習を完遂し、その間、発作出現せず。

#### 症例2 新入予定高校生 足関節骨折

入試の後、大学生との合同練習中に本学で受傷。受傷後、骨折が疑われたため、救急病院受診、「足関節脱臼骨折」の診断にて緊急入院、手術施行。退院後地元で治療。入学後健康管理室にてリハビリテーション指導し、スポーツ復帰。

#### 症例3 新入予定高校生 膝前十字靱帯損傷

入学予定生。地方出身者。前医にて手術を勧められ相談のため、大学監督を通じ健康管理室来室。手術時期、入院期間、術後リハビリテーションの

\* 国士舘大学体育学部スポーツ医科学教室 (Dept. of Sports medicine & Science, Faculty of Physical education)

\*\* 国士舘大学健康管理室 (Office of Health administration, Kokushikan University)

希望が前医ではかなわないため、本学よりスポーツ専門病院を紹介し、手術施行。術後健康管理室で経過観察し、スポーツ復帰。

### 問診表の必要性

スポーツ医学の立場から、スポーツ選手が必ずしも健康とはいえないとされ、貧血の頻度は一般人の約2倍との報告もあり<sup>1)</sup>、スポーツ選手に特有といえるスポーツ障害（オーバートレーニング、原発性無月経など）も発生する。また、スポーツによる突然死も、その引金となる心疾患がスポーツ選手に皆無とはいえず、体育大学学生にも運動を禁止すべき不整脈の発現を見る例や<sup>2)</sup>、一流のバレーボールプレーヤーがマルファン症候群に伴う大動脈瘤破裂で命を落とした例がある。本来、スポーツは健康な肉体や精神を形成すべく行われるものであるが、究極の、又それに近い状態まで肉体及び精神まで追い込む場合、生命が危険な状態に陥る可能性がある。また、最近、浪人生が数多く入学しており、その中に、定期的に運動していない者がいることが推測される。また、症例1では、本人が内服治療を継続していたことにより、てんかんのコントロールが良好で発作が起らなかったため、臨海実習も何事もなく終了している。しかしながら、3年生になり、発作が頻発するようになったことを考えると、安全性の面から運動の可否判断を入学時に慎重に行っておく必要があった症例と考えられる。いままで、スポーツ活動に支障がなかったから今後もスポーツを行っても安全であるという命題は、真とはいえず、突然死を含めたスポーツによる事故を予防する観点で、学生の安全管理を行って行くことが必要であると思われる。本学では、新入生対象に、心電図検査、胸部レントゲン撮影、聴診が行われており、これら検査で異常が認められれば、当然精査の対象となる。しかしながら、既往歴や胸痛発作や失神の経験の有無などの問診をとることがないため、基礎疾患をもっている場合でも偶然安静時の

チェックで異常が認められない場合、運動負荷で顕在化する疾患は通常マスキングされてしまう。運動前のメディカルチェックは、重要性が叫ばれているものの、コストや実効性、有効性の面から全ての者を対象に、運動負荷の前にことごとく行うことは不可能である。しかしながら、体育学部講義は、体育実技、実習が含まれ、通常の学生生活よりも運動負荷にともなうリスクが発生する。このため、問診表を作成し、起こりうるリスクに備える事は重要と考えられる。

症例2、3は共に整形外科的疾患である。スポーツ障害は、スポーツ選手につきものである。しかしながら、適切な治療が行われない場合、本人の人生設計を狂わせてしまうこともある。症例2は、入学予定の学生と逐一連絡を取り、入学してから早期にスポーツ復帰できた症例である。スポーツ復帰という動機付けを絶えず行うと共に、日常生活動作の回復で満足させず、入学時に早期スポーツ復帰ができるように、地元でアスレチックリハビリテーションを行える環境作りと指導を行い、入学後の体育実技が完遂できるよう治療した症例である。このように、入学時に既に運動制限を生じるスポーツ障害をもつ学生は、早期に専門医を受診し、的確な診断と適切な治療に基づいたリハビリテーションを行い、できるだけ早くスポーツ復帰ができるように道筋をつける必要があると考えられる。新入生の場合、入学時は環境に慣れるのが精一杯なため、スポーツ障害に対するケアに関して配慮するゆとりがないものが多いと見え、健康管理室を訪れるのは後期になってからが多い。

スポーツ選手であっても、喘息や痛風、水虫などで常用薬を使用している場合がある。運動選手の場合、ドーピングとの関連で常用薬調査は必須である。ドーピング検査を受ける可能性のある国際級の選手はもちろん、現在国内大会でも全日本選手権でドーピング検査を行う種目もあり、不用意な薬物使用により、ドーピング疑惑に巻き込まれないように指導する必要がある。

以上述べてきたように、安全にスポーツを行い、スポーツ障害に適切に対処し、ドーピング検査やフェミニティテストといったスポーツ選手特有のスポーツ医学的課題にも対処できるような体育学部独自の問診表を学生を対象に作成することが必要と考えられる。

### 体育学部における問診表の実際

以上述べてきた観点から作成した問診表を表1に示す。問診表の作成に当たって、できるだけ選択性とし、記述を少なくし、記載漏れや誤記載が発生しないように留意した。また、本人の人権にも十分配慮し、記載事項が漏洩しないこと、十分なインフォームドコンセントの基に行われる調査表であることが伝わるように配慮した。以下に作成にあたって考慮した点を列記する。

#### ア) 既往歴もしくは現病歴

スポーツによる突然死の原因となる主たる疾患を選択した。冠血管危険因子はここにいれるようにした。

#### イ) 現在あるもしくは運動によって出現する症状

スポーツを行うことによって生じる症状を聞くことにより、運動負荷によるリスクを把握することを目的とした。

#### ウ) その他

Personal profileや常用薬の調査を行い、ドーピングも含めた対応ができるように配慮した。

#### エ) 骨・関節の状態について

ここでは、スポーツ障害の状態を調査することを目的とした。

#### オ) 女性に関する問診

女性の月経に関する問診は、ストレス、栄養状態を知る上で重要で、また、最近エストロゲン分泌低下にともなう無月経と骨塩量低下がひきがねとなる疲労骨折の発生が女子スポーツ選手の間で問題となっている。このような女性特有の問題をチェックすることを目的とした。

### お わ り に

今回、突然死を含むスポーツによる事故発生の予防を主たる目的とし、問診表の作成を試みた。問診表の作成で全ての健康管理の問題が解決するわけではない。しかしながら、簡便でかつ低コストで有効性の高い調査であると考えている。今後、この調査表を活用し、体育学部の健康管理に役立てると共に、更により問診表を作り上げて行きたい。

### 参 考 文 献

- 1) 河野一郎：女子スポーツ選手の貧血の状況 臨床スポーツ医学 6:486-492, 1989
- 2) 山崎 元：大学運動部におけるメディカルチェックー循環器科の立場から 臨床スポーツ医学 3:397-403, 1986
- 3) 坂本静男：本邦及び諸外国におけるメディカルチェックシステムの現況スポーツのためのメディカルチェック 7-16, 1989

表 1

## メディカルチェックのための問診表

国士舘大学体育学部

この問診表は、皆さんの健康管理を目的として記入して頂くものです。記載された内容は、健康管理室の医師の責任のもとプライバシーは守られます。記載事項は漏れがないように、また正確に記入してください。

氏名 (            ) 学籍番号 (            ) 現役、(    ) 浪 (    年    月    日生まれ)  
性別(男、女) 血液型 (    型 R h -、+ ) 専門スポーツ種目 (            )

1. 過去に経験した病名、もしくは現在治療中の病名があれば該当する項目に○をつけてください。

心疾患、精神病、肝臓病、腎臓病、気胸、過呼吸症候群、喘息、川崎病、リウマチ熱、頭部外傷、てんかん  
不整脈、糖尿病、高血圧、高尿酸血症（痛風）、高脂血症、結核、貧血、

2. 安静時、運動時に以下の症状が出現することがある、もしくは過去に出現したことがあるとき、該当する項目に○をつけてください。

喘息発作、失神、全身痙攣、胸痛、動悸、呼吸困難、著しく疲れる、めまい、たちくらみ、不眠、むくみ  
寝汗

3. 以下の設問に該当する場合、ハイに○をつけ、（ ）があればその内容を（ ）内に記入してください。

●血縁者で、運動中に突然死をきたしたものがいる ハイ イイエ 不明

●アレルギー体質である      ハイ（                      アレルギー）                      イイエ

●常用薬がある                      ハイ（薬品名                      ）                      イイエ

●タバコを吸う                      ハイ（約                      本／日）                      イイエ

●酒を飲む                      ハイ（平均                      を                      杯／日）                      イイエ

●手術を受けたことがある ハイ（病名） イイエ

4. 現在運動に支障のある骨・関節の痛みのある人は、部位とわかる範囲内の病名をかいってください。

部位	病名	およその発症時期
( )	( )	( )

$$\left( \begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \quad \left( \begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right) \quad \left( \begin{array}{c} \vdots \\ \vdots \\ \vdots \end{array} \right)$$
$$\left( \begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right) \quad \left( \begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right) \quad \left( \begin{array}{c} \text{ } \\ \text{ } \end{array} \right)$$

( ) ( ) ( )

5. 女性におききします。該当するところに○をつけるもしくは( )に記入してください。

● 初経 あった( 年 月) ( 才 月) ない

●月経周期はほぼ一定している      ハイ      イイエ

●女性証明書をもっている      ハイ（発行機関と大会名      ）      イイエ

6. そのほか、健康管理について、校医に相談したいことがありましたら、記入してください。